

- * バプテスマのヨハネ (B. ヨハネ) のことについては、4つの福音書が詳しく述べている。それだけ当時、彼の名と力が大きかったことがうかがえる。彼はヨルダン川のほとりのすべての地方で「悔い改めなさい。天の御国が近づいたから」と話し、バプテスマを授けた。しかし、彼は一体だれなのかという疑問があり、パリサイ人が人を遣わして聞きに行かせた。
- * 彼は、偉大な預言者エリヤの再来でもなく、「あの預言者」メシヤ(キリスト)でもないとはっきりと断言した。「私は、預言者イザヤが言ったように『主の道をまっすぐにせよ』と荒野で叫んでいる者の声です。」(ヨハネ1:23) キリストがもうすぐ来られる。私は、障害物を取り除いて、その通られる道を準備するように叫んでいる「声」に過ぎない、と。主の前ぶれとして、先駆者として遣わされただけのものだという。「その方は私のあとから来られる方で、私はその方のくつのひもを解く値うちもありません。」(1:27) くつのひもを解くのは奴隷の仕事だったので、私は主イエスの前では奴隷以下ですと告白している。多くの者がB. ヨハネのところに来ていて、霊的な力、民への影響力は絶大であった。恐らく「ヨハネ教」という宗派が出来上がっていたといっても過言ではない状況であったと思われる。しかし、彼は徹底的に謙虚な人物であった。主イエスご自身が預言されたように、「私は再臨のキリストだ」人々を惑わしている自称キリストが次から次に現れている。今でもそうである。
- * 「彼は光ではなかった。ただ光についてあかしするために来たのである。」(ヨハネ1:8) 彼の謙遜の根拠は、「ヨハネはこの方について証言し、叫んで言った。『私のあとから来る方は、私にまさる方である。私より先におられたからである』と私が言ったのは、この方のことです。」イエス・キリストはB. ヨハネより後に生まれた方であるけれども、「先におられた」、すなわち、神の御子であり、この世の前からおられ、この世を創造された方であることを、B. ヨハネはよく知っていた。
- * B. ヨハネは、キリストが来られるので、道を備えて人々をキリストに導くために神から遣わされた者である、と明確に告白した。私たちも、いつも謙虚に主に仕え、自分に与えられた役割や働きをはっきりと認識して、それを着実に行うものとなりたい。